

## 水の都 松江

静岡センターの伊東さんより紹介に預かりました、島根センターの秋元です。依頼があったときには、「よろこんで！」と言いました。私が暮らす松江の情緒を、ぜひ伝えたいと思ったからです。

私は、沖縄出身で、5年前に松江に来るまで、寒さを凌ぐ方法を知らず、当初はトースターを枕もとに持ってきて暖をとっていました。ほかにも、カルチャーショックを受けたものがたくさんあります。農家の家のたたずまいや、稲穂の鮮やかさ、城下町に漂う“伝統”という言葉が似合いそうな景色、1つひとつが新鮮な驚きでした。古来の日本の姿が、そこかしこにあるように思いません。

松江には、宍道湖という大きな湖がありまして、そこから流れる大橋川のそばに、島根センターはあります。センターから、2kmほど下流に矢田の渡しという、渡し舟が運行されています。船着場近くに住宅街があり、対岸には高校があるため、通学の足として、大活躍です。私も試しに乗りに行きました。

列に並ぶと高校生たちが「おはようございます」と自然なあいさつをしてくれます。その日は霧が濃く、対岸が見えませんでした。そんなときは、小さな鐘を鳴らすと、対岸から来てくれる、とのことでした。接岸時間20秒ほど、ポウーとしていると置いていかれます。船内では、高校生たちは自転車をキチンと並べていました。120mほど、1分間の船旅です。料金は、自転車50円・大人40円・子ども20円。実は、この渡し舟の歴史は古く、風土記の時代（約1300年前）から運行されていたそうです。

もうすぐ卒業シーズンです。渡し舟で通っていたあの子どもたちは、いつか、あの船を懐かしく思うのでしょうか。



私も、将来松江の地を離れることがあっても、必ず思い出すでしょう。

センターの近くには、はくちょう号という定期観光船の船着場もあります。貸し切りで、宴会もでき、宍道湖に沈む夕日を見ながら、一杯やるのも格別です。また、松江城の、お堀を船で遊覧する堀川遊覧というものもあります。橋の下を通るときは、頭を下げなければならず、なかなかスリルがあります。春は花見をしながら、冬はコタツに入りながら、城下町を遊覧できます。

また、山陰は、温泉の宝庫です。私は、日帰りで、気軽に入る温泉が好きで、最近のお気に入り、出雲駅裏にあるランプの湯です。茶色いお湯で、タオルも茶色くなりますが、お肌すべすべになります。ほかにも、一畑電車などいろいろありますので、興味のある方は、お調べになってみてください。

今回は、私と同期で同郷の、兵庫センターにお勤めの盛舩さんです。新人のころから、数少ない仲間として支えてもらいました。盛舩さん、張り切ってどうぞ。